

(支援学校研究報告様式)

令和6年度 (宮城県立角田支援学校) 学校の研究概要 ～令和7年1月末現在～

運営委員氏名 (菊池 里枝)

研究テーマ	児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための指導の在り方 ～教材・教具の工夫と授業実践を通して～
研究目標	児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための具体的な指導の在り方を授業実践を通して明らかにする。
研究内容・方法 研究計画等	<p><研究の内容及び方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーション能力に関する児童生徒の実態把握 2 学級をベースとした研究グループを編成 3 研究グループ内で実践事例の対象を決め、実践計画を作成 4 必要に応じて、外部専門家等を活用 5 研究グループ毎、コミュニケーション能力を高めるための指導の実践 6 実践に伴う研究授業の実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究授業の実施 (学部代表授業公開、検討会) (2) グループ毎に指導実践を公開 (授業公開) 7 各実践事例のまとめ 8 各実践事例の成果等の共有 9 研修会の実施 <p><研究期間> 令和5年度から6年度までの2年間</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究グループ毎に指導実践と研究授業を行い、実践事例にまとめた。 小学部6グループ、中学部3グループ、高等部7グループ、計16グループ 2 実践事例報告会 1月30日に校内で実践事例報告会を実施する予定 3 校内研修 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諸検査法研修会 (S-M社会生活能力検査第3版) …4月22日に実施 (2) ミニ研修会 <ol style="list-style-type: none"> ① 検査法を主としたミニ研修会 …7月9日と7月17日に実施 ※下記の内容の研修会を2回実施 ア: NCプログラム「認知・言語促進プログラム」 イ: LDT-R「太田ステージ評価」 ウ: 絵画語い検査 (PVT-R) ② DropTalkの演習とドロップレット・プロジェクトの紹介 …7月23日実施 ※上記の内容の研修会を3回実施 4 研究成果等 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション能力を高めるための具体的な指導の在り方がある程度明らかになった。 ・ 指導実践を通して、計33事例を蓄積することができる見込みである ・ 実践事例報告会を実施したことで、成果等を共有できた。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。